

神野の一石五輪塔

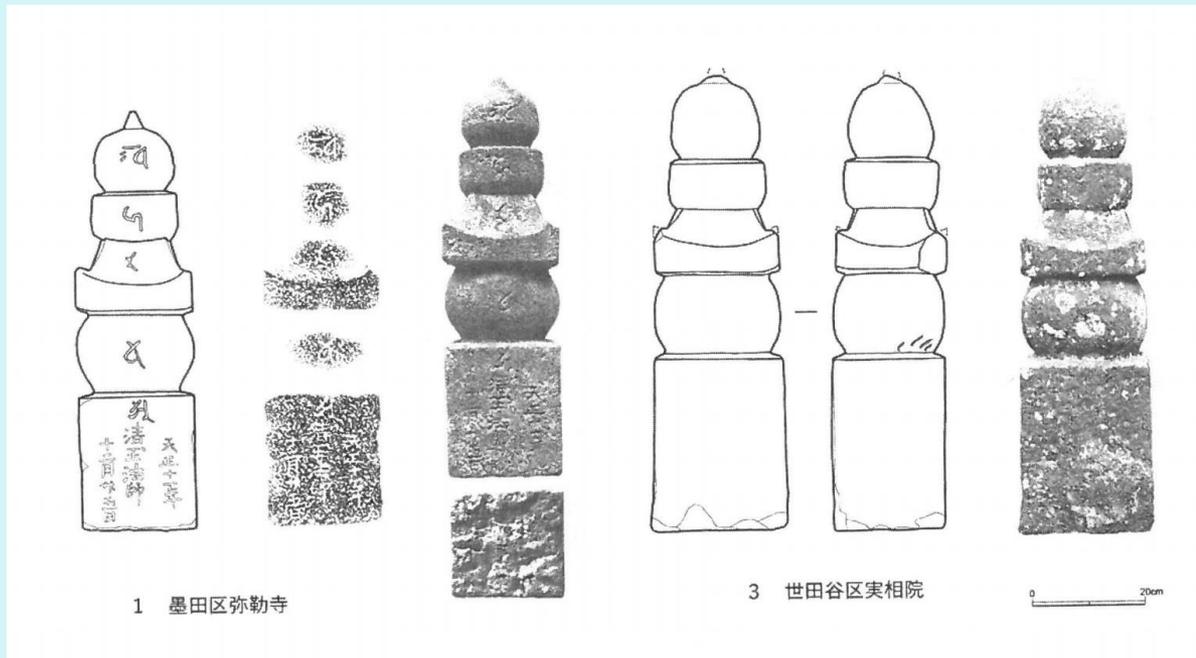


2020.8.15
八千代市郷土歴史研究会例会

蕨由美

▶ 一石五輪塔とは

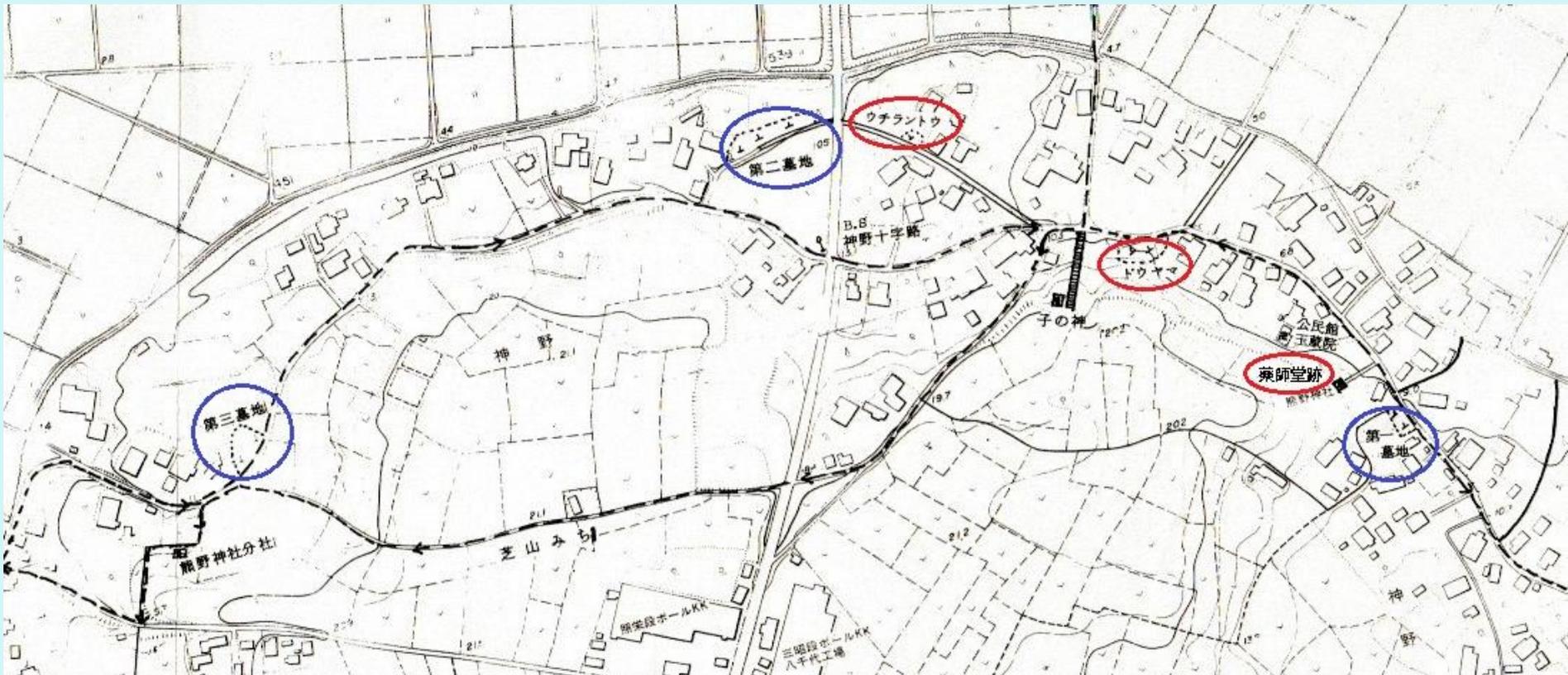
- ▶ 石造の五輪塔は、一般に複数の部材を組み合わせて形作りますが、地輪から空輪までを一石で彫成した小型の五輪塔を特に一石五輪塔と呼びます。
- ▶ 一石五輪塔は、室町時代(15世紀半ばころ)から江戸時代初期(17世紀半ばころ)に数多く見られ、主に墓標として用いられました。
- ▶ その分布は、関西地方を中心に、広く確認されていますが、関東以北でのその数は少なく、貴重です。



本間岳人 「東京の一石五輪塔」
『葬送・墓・石塔：論集：狭川真
一さん還暦記念論文集』2019

▶ 神野の墓地

- ▶ 青色は、明治七年「墓所繪圖面書上帳」にもある現代の墓地、江戸中期以降、現代の墓石が多い
- ▶ 赤色は、石塔墓地（マイリバカ）、江戸前期～中期の墓石が多く、後期～近代はほとんどない。
- ▶ 江戸初期の五輪塔は、「ドウヤマ」に5基（最古は寛永8年銘）、薬師堂跡に3基ある。（『神野の民俗』）
- ▶ 「ドウヤマ」は村の草分けと称する六軒で管理している（『神野の民俗』八千代市教育委員会 1976）



『神野の民俗』八千代市教育委員会1976の地図に追加

▶ ドウヤマに二つあった一石五輪塔

2020.2.22撮影



左：中央の一石五輪塔A



右：右端の一石五輪塔B

▶ 「ドウヤマ」の一石五輪塔A



2020.7.30 と 2020.8.1 (裏側を正面に向き変え後)



水輪 銘 種子 (ア)

地輪 銘 寛永十六年
道胤禅定門
己卯三月九日敬白

▶ 第2墓地に移動した一石五輪塔 B



2020.2.22ドウヤマ



2020.7.30第2墓地



地輪の銘文

種子 (ア) 寛永十七年
道金禅定□門 靈位
二月十六日

▶ 神野の一石五輪塔2基についてのまとめ

- ▶ A：ドウヤマ墓塔群中央にある。銘のある正面が裏側に向き、地輪下部が埋没して設置されていた。
法量：空輪部を欠く 高さ65（空輪を入れると75cm位か？）×幅20×奥16.5cm
銘：水輪〔種子ア〕 地輪「寛永十六年（1639）／道胤禅定門／己卯三月九日 敬白」
「道胤」は千葉氏系の帰農した武士の戒名か？
- ▶ B：墓塔群の右端にあり、正面が左隣の念仏塔に接して左面を向いていた。
2020年7月末までに第2墓地F田家に移動、8月に同地に再設置された。
法量：高さ71×20×20cm 地輪の高さ28cm
銘：地輪「〔種子ア〕 寛永十七年（1640）／道金禅定□門 靈位／二月十六日」
- ▶ A・Bともに、寛永期の没年銘のある江戸初期の墓塔。中世末に遡らない。
- ▶ 形態と法量から、関東では世田谷区実相院の一石五輪塔（高さ51.8cm 無銘 17世紀前半）に類似する。
- ▶ 中世末の一石五輪塔は、空風火水地の各輪に「キャ・カ・ラ・バ・ア」の各種字を彫るが、本例では、真言系の一般的な墓塔の様式の「ア」を1字を地輪の戒名の上に付けている。
なお、Aでは地輪ではなく水輪に入れているのは、中世の名残か、または地輪の字の配置上なのかは不明。

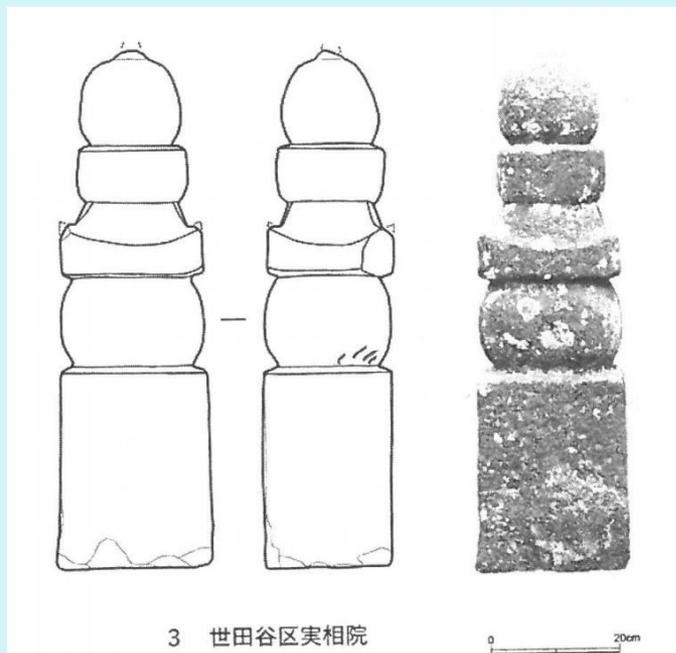
神野の一石五輪塔



A：寛永16年銘



B：寛永17年銘



3 世田谷区実相院

「東京の一石五輪塔」
本間岳人 2019